

# 身体構造図

## 緊縛の影響を受ける神経

### 神経の説明

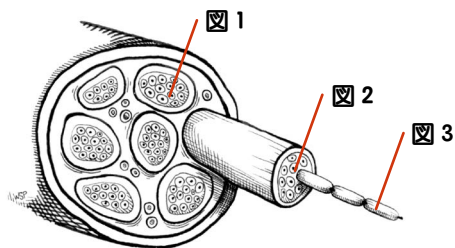
神経は神経細胞の軸索から成る、いくつもの運動と知覚の神経線維から成り立ち(図1)、ミエリンにより守られている。長期にわたる圧迫、あるいは深刻な圧迫は、ミエリンの傷害を起こす危険性がある。傷害のある場合は運動や知覚機能に支障がでる場合もある。回復期間は数分から3か月かかる。

### 予防

- 様々な縄の間に対等なテンションを保つことは安全な構造を作る
- 受け手が態勢を調節できるようにすること
- 特に移行の間に縄がすべることもある
- 定期的に受け手が腕や脚の感覚を確認するようにする。



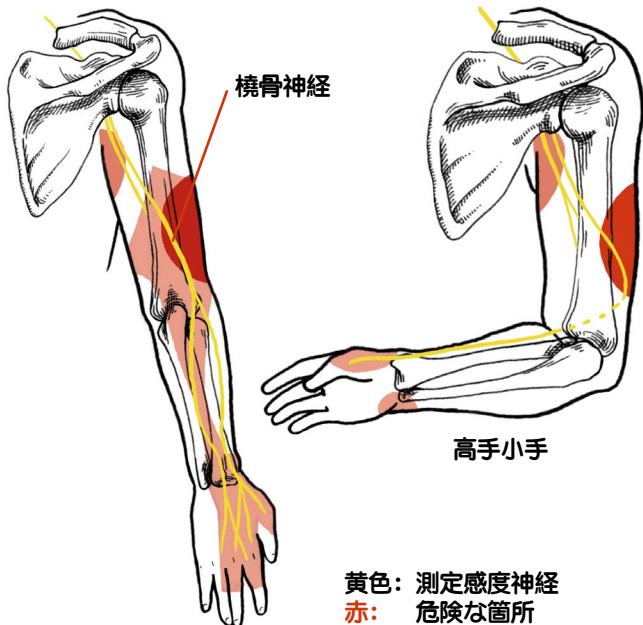
腕の神経の状態を確認するには、手を握り、親指を強く立たせる。



痛みや目に見える前兆なしで圧縮は起きるが、臨床的な症状は起る。感覚を失う、筋肉が動かない、異常な感覚(針で刺されるような感覚、過敏症等)

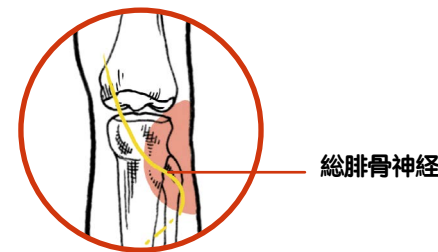
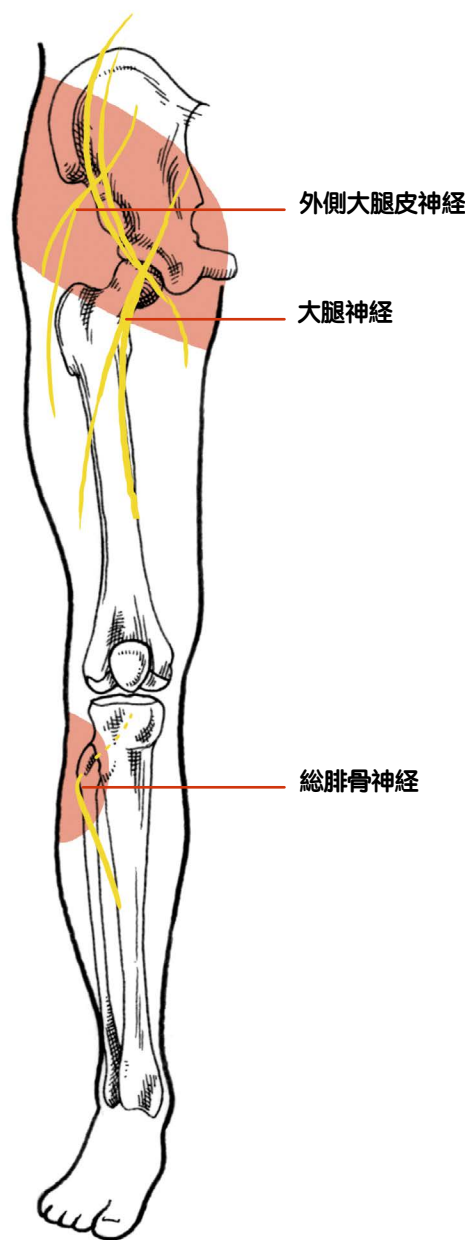


腕の主な神経(人により、ポジションは異なることもある)



黄色: 測定感度神経  
赤: 危険な箇所

## 脚の主な神経



異常な感覚、感覚の喪失や運動機能に支障がある場合は、更なるダメージを避ける為、冷静に丁寧に縄をほどくこと。

その後、非ステロイド性抗炎症薬を摂取する  
• 腕や脚を優しくなでる

その後:  
• 痛めた部位を休ませる  
• ビタミンBを摂取する(ミエリンの再生を補助する)  
• それでも数日で回復の兆しがない場合、神経障害があるため、医者に見てもらう。

他に避けること:  
• 圧迫の原因となる包帯等は避ける  
• 完全な回復までは支障のある部位に縄をあてないこと



制作: プラス・デ・コルド、アントワン・サヴァルスキ、イラストと図: エルサデボン。シバリサーカスにも感謝